

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココロ横浜アトラス		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		～ 2025年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年12月10日		～ 2025年1月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ココロ・メソッドによる療育プログラムが基本になっており、それに基づいた研修を行っているので、スタッフ間で療育技術や療育理論の共通認識が高く、足並みがそろいやすいことです。それにより、お子さんの状態をより早く、より良い発達に導くことが出来ます。	全国の教室をZOOMで繋ぎ、ココロ発達療育センター全体で、定期的に子どもたちへの対応技術の研修、理論的な研修を行っています。また、対応に苦慮するお子さんがいた場合には、全体で知恵やアイデアを出し合い乗り越えるなど、チームで療育に当たるという意識で行っています。	ココロ・メソッドの療育方法を知っていただき、一人でも多くの理解者が増えることは、子どもたちの利益につながります。学校の先生、放課後等デイの支援員、相談支援員さんなど、お子さんを取り巻く支援者の皆様の見学はいつでもお受けしていきます。
2	集団適応力を育む「リズム」「集会」「歩行トレーニング」など、自閉症のお子さんに対する効果的なプログラムがあり、それをその日集まったお子さんに合わせて柔軟に組んで行うことが出来ます。	リズムで流す曲や集会教材などは季節感やトレンドを取り入れ、子どもたちを知らず知らずの内に楽しい雰囲気の中に引き込んでいきます。そのためには、スタッフの技術が必要ですので、活動を行いながら実地研修をしたり、終了後に意見交換をし、お互いを高めています。	自教室だけの活動だけでなく、大きな会場を借りて、関東にあるココロ・メソッドを行う教室と合同で活動を行うことで、「いつでも・どこでも・誰とでも」落ち着いた行動が取れる力がつくように、活動の機会を増やしていきます。
3	教室の中だけでなく、ご家庭でも出来る療育技術をお伝えし、実践をしていただけるように、勉強の機会を月1回開催していることです。	ココロの教室だけ、特定のスタッフだけと出来るだけでなく、「いつでも、どこでも、だれとでも」行動が取れる力が、将来の社会参加に繋がります。そのためにも保護者の皆様に日頃の関わり方をお伝えする勉強会を開催しています。	送迎をされるお母さんだけでなく、お父さんやそのほかのご家族とも交流が持てる時間を設け、お子さんの対応がわかる理解者を増やしていく取り組みが必要と感じます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育を行う教室が狭い点。	子どもたちもだんだんと大きくなり、手狭感が否めない。教室移転は構想の中にあり、物件を探してはいますが、家賃が高く今のところ移転は現実的ではありません。	教室が狭いからこそ、戸外歩行に出かけたり、公園で遊具の使い方を練習したりと、工夫をしつつ外活動を充実させています。
2	送迎サービスがない点。	利用者さんのお住まいが広範囲にまたがっているため、送迎がしづらいことと、私たちは親御さんから直接様子をうかがいながらお預かりし、活動の様子をお伝えしながらお返しすることが意義深いと思っていますので、送迎サービスは行いません。ですが、お問い合わせの時点で送迎サービスを望まれる方も多く、送迎サービスがないという理由で当センターをお断りされる現状も把握しています。	車で送迎される方がほとんどですので、駐車場は4台分借りています。また、駐車は協力し合ってお利用いただくようお願いをしています。
3	活動の内容を頻繁に映像でお送りするなどのシステムがない点。	LINEやInstagramを活用して、保護者に活動の様子を映像でお伝えするシステムはありません。画像処理に長けているスタッフがいないことも要因の一つです。	随時送ることはできませんが、活動写真を連絡帳に添付したり、定期的なココロだよりでお知らせするなど、子どもたちの成長を見ていただけるように工夫をしています。